

部課名		経済観光部産業政策課										
課の使命		○町田商工会議所や町田新産業創造センター等の事業者支援機関と連携し、事業者の創業期、拡大期、承継期などの様々なステージに応じた支援を行うことで、市内産業の活性化を図ります。 ○市内経済の中心である中心市街地において、都市再生推進法人をはじめ、中心市街地で活動する団体、企業と協力して一層の賑わいを創出します。 ○経済観光部内の連絡調整並びに部内の事務事業の執行計画の調整及び進捗管理を行います。										
実行計画(年度目標)												
順位	計画類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	中間確認		年度未確認			
							上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に対する実績値	評価	評価の視点
1	-	魅力的で効果のある情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内産業支援団体と共に取組む町田市産業振興計画19-28に掲げる4つの柱ごと56の施策について、効果的な情報発信を積極的に推進します。</li> <li>対象とする顧客の目線に立って情報を精査し、効果的な見せ方や情報発信媒体を工夫していきます。町田市産業振興計画における施策の円滑な推進と進捗管理を行う「町田市産業振興計画推進委員会」において、各施策の指標の成果に対する情報発信の取組効果を報告します。</li> </ul>	①「町田市産業振興計画推進委員会」効果報告 ② 広報戦略の策定 ③ 情報発信数	①年2回 ②策定 ③前年度比110%	○	①情報発信の取り組みについて、2024年度の結果及び2025年度の進捗等を、8月に開催した第1回町田市産業振興計画推進委員会において報告し、委員からは一定の評価をいただきました。 ②4月に、広報媒体や関連機関等を整理し、広報戦略としての(仮称)プロモーションチェックシートを策定しました。また、このチェックシートに基づき、各担当で活用する広報媒体等を改良しました。 ③(仮称)プロモーションチェックシートを活用し、SNSを中心に情報発信を行いました。投稿時期及び内容を管理した結果、上半期の情報発信数は合計252件となり、各月とも前年度比110%以上となりました。	①産業関連のイベントを活用した情報発信等を実施し、2月に開催予定の第2回町田市産業振興計画推進委員会にて効果を報告します。 ②より効果的な情報発信を行えるよう(仮称)プロモーションチェックシートを見直し、下半期に開催するイベント等に関する情報発信において、引き続き戦略的に活用します。 ③年間を通して活用できる産業振興支援メニューの定期的な情報発信も重要と考え、町田創業プロジェクト等についても情報発信します。	①上半期からのSNS等の情報発信に加え、下半期では産業関連のイベントを活用し、対面での情報発信を実施しました。その結果について、2月開催の第2回町田市産業振興計画推進委員会にて効果と報告し、SNSだけでなくイベントを活用する等、工夫しながら情報発信に取り組んでいると評価をいただきました。 ②広報媒体等の整理に加え、情報発信の行えるイベントをまとめ、名称をプロモーションチェックシートと決定しました。各事業担当がプロモーションチェックシートを活用した結果、課の情報発信数の増大だけでなく、事業関係者や関係機関等へシートを共有し、連携した情報発信等を行うことができました。 ③2026年度に向けて、年間を通じて活用できる産業振興支援メニューの情報発信も行いました。その結果、情報発信数は524件となり、年間を通じて、各月とも前年度比130%以上となりました。	①年2回 ②策定・活用 ③前年度比130%	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。 町田市産業振興計画19-28に掲げる58の施策のうち、2025年度の評価が目標値に達していない事業について、どのような事業者が必要としている情報なのか分析し、事業者に必要な情報が届くよう、発信に取り組めます。 プロモーションチェックシートを課職員の必携品とし、より活発で効果的な情報発信をするために活用、更新します。
2	重点事業プラン	中心市街地活性化の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市再生推進法人である株式会社町田まちづくり公社や地元商店会等とともに、原町田大通りを活用し、休憩や飲食ができる空間の提供や、様々なイベントを実施することで、訪れる人が憩いや賑わいを感じることができる、居心地の良い空間を創出します。</li> </ul>	①イベント実施回数 ②アンケート調査による満足度 ・憩いに関するアンケート:滞留空間にQRコードを設置し、日常的に利用する人を対象とするもの ・賑わいに関するアンケート:イベント開催時に原町田大通りを訪れた人を対象とするもの	①4回 ②満足度65%以上	○	①ゼルビアウォークラリーの拠点やまちスト拡大版の出店スペース等として、はっとterraceを活用したイベントを4回実施しました。イベントを通して様々な交流機会を創出し、新たな賑わいを醸成しました。 ・日常的には、はっとterraceに、都市再生推進法人である株式会社町田まちづくり公社とともにパラソルや椅子・テーブルを設置しました。その結果、一息つける休憩スペースとして中心市街地を訪れた多くの人にご利用いただきました。7月中旬から9月中旬はミストつき扇風機を設置し、涼を感じることができるスペースとなりました。また、地域団体と協力した美化活動を行う等、居心地の良い空間を創出しました。 ・中心市街地の賑わい醸成に向けた関係機関との会議である夢まち会議において、はっとterraceの活用等について定期的に協議を行いました。7月には、まちなかの約80名と中心市街地の今後及び原町田大通りについて等、意見交換会を実施しました。 ②満足度調査について、調査手法の検討を実施し、調査項目を確定しました。	①引き続き、都市再生推進法人である株式会社町田まちづくり公社とともに、はっとterraceを活用し、中心市街地のさらなる賑わいや、まちの魅力を醸成します。また、夢まち会議にて関係機関と情報を共有するのと中心市街地をテーマにした意見交換会を実施します。 ②アンケート等により、満足度調査を実施し、調査結果を分析します。	①はっとterraceを各種ウォークラリーの拠点として活用するなど、全8回のイベントを実施し、様々な交流機会の創出や、新たな賑わいを醸成しました。 ・日常的には、はっとterraceに、都市再生推進法人である株式会社町田まちづくり公社とともにパラソルや椅子・テーブルを設置しました。その結果、一息つける休憩スペースとして中心市街地を訪れた多くの人にご利用いただきました。7月中旬から9月中旬はミストつき扇風機を設置し、涼を感じることができるスペースとなりました。また、地域団体と協力した美化活動を行う等、居心地の良い空間を創出しました。 ・関係機関代表者との会議である夢まち会議において、今後のまちづくりの方向性の対話を重ね、7月と11月、3月には、まちなかの約80名と、町田駅周辺再開発や原町田大通り、芹ヶ谷公園等、中心市街地の現状や今後について意見交換会を実施しました。 ②11月9日に原町田大通りで開催した「第13回キラリ☆まちだ祭2025」において、初めて玉川大学と連携し、来場者アンケートを実施しました。全回答数208件のうち、はっとまちだ及びはっとterraceを利用したことがある117件のうち、居心地がよいと思う割合が83件(70.9%)と比較的高い満足度を得ることができました。	①8回 ②満足度70.9%	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。 整備したはっとterraceを居心地の良い、快適な空間として維持管理していく必要があります。 引き続き都市再生推進法人である(株)町田まちづくり公社と維持管理を行うとともに、はっとまちだやはっとterraceを拠点に、日常的な憩いの場としての活用や、イベントの実施による賑わい創出事業を実施します。

順位	計画 類型	年度目標設定				中間確認		年度末確認					
		取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括		目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点
3	人材 育成	「チャレンジ志向」	<p>・町田市産業振興計画19-28では、「チャレンジするならTOKYOの町田から!」を掲げ、チャレンジする市内事業者を市内産業支援機関と共に支援しています。</p> <p>・係配置の無い当課の業務体制を活かし、職員が市内産業支援機関との共創の視点、業務プロセスを見直し、効率化を図るためのフレームワーク(※「ECRS」)やヒヤリハットなど「自分満足」から「組織満足」の視点で考えるチャレンジを推進します。</p> <p>・職員の考えるチャレンジによる発想を課内定例会議や他団体との協議の場を活用して、組織満足へとつないでいく場を整えます。</p> <p>※「ECRS」 Eliminate: 排除する、Combine: 結合する、Rearrange: 再配置する、Simplify: 簡素化する の頭文字で、業務改善の4原則。</p>	<p>① 定例会議等への提案数</p> <p>② 提案実現数</p>	<p>①25件</p> <p>②20件 ※すでに達成しており、実現可能提案が上記の件数見込まれるため、修正しました。</p>	○	<p>①上半期は、情報発信やヒヤリハット等課の課題について、16件の提案がありました。そのうち、係配置の無い業務体制を活かし、ラインを超えた複数職員がプロジェクトを組んだ提案が4件ありました。</p> <p>②個人や少数でチャレンジできる提案を中心に、15件実現できました。そのうち、キャリア教育プログラムの受け入れは、課として初めての取り組みとなりました。</p>	<p>第22回たまた工業交流展への出展等他団体との協議の場を活用して、組織満足度を高める事業の提案及び実現を各担当の業務を超えて、課全体で行います。</p>	<p>①提案制度を通して、より強く業務改善を常に意識する環境が整いました。その結果、下半期は、経済に関する勉強会や窓口の活用等産業政策課全体に係るものを含め、提案が9件あり、合計25件となりました。また、各職員が「自分満足」から「組織満足」の視点で業務改善を検討・実施できるようになりました。</p> <p>②下半期は、提案が別の職員の提案につながる等、一つの課題に対して様々な視点で業務改善を実現しました。また、創業プロジェクトの証明書発行手続きオンライン化等、課内全員でチャレンジするものを実現しました。その結果提案実現数は、合計24件となりました。職員のチャレンジ志向により、展示会用に事業内容をまとめたパネルの作成や町田市内の移り変わりをイベントを通じて共有する等、課職員必携の知識習得が進み人材育成ができました。</p>	<p>①25件</p> <p>②24件</p>	C	C:目標水準を達成したためです。	<p>業務改善すべきことに気づき、実際に改善する風土が引き続き求められます。</p> <p>課職員必携の知識集を活用し、事業への理解を深め、ECRSを意識して業務改善を行います。</p>

部課名		経済観光部観光まちづくり課											
課の使命		市民にとっては地域に愛着を感じ住み続けたいとなるような、来訪者にとっては何度も訪れたいとなるようなまちを実現するため、観光まちづくりを推進します。											
実行計画(年度目標)													
順位	計画類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	中間確認		年度未確認				
							上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に対する実績値	評価	評価の視点	課題と対応
1	重点事業プラン	「町田薬師池公園四季彩の杜」魅力向上の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町田リス園基本計画を策定します。</li> <li>・春と秋に四季彩の杜の各施設が連携したイベントを実施します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①基本計画の策定</li> <li>②イベントの満足度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①完了</li> <li>②80%以上</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>①町田リス園や関係部署とリニューアル後のゾーニング案について、意見交換を実施しました。また、町田リス園利用者保護者への説明会の開催に向けた調整を行いました。</li> <li>②町田薬師池公園四季彩の杜で、4月12日から5月6日まで、エリア内の9施設が連携した「春フェア2025～花の便り～」を開催し、延べ17万人の来園がありました。イベントの満足度は97%でした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①町田リス園利用者保護者への説明会を実施し、2026年3月の計画策定を目指します。</li> <li>②秋の大型イベント「秋遊び2025」(10月11日～11月30日)を開催し、各施設で行うイベントの一体的なPRを行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①町田リス園や関係部署とリニューアル後のゾーニング案について、意見交換を実施しました。また、町田リス園利用者保護者へリニューアルについての説明会を開催しましたが、計画策定には至りませんでした。</li> <li>②四季彩の杜の各施設が連携したイベント「春フェア2025～花の便り～」や「秋遊び2025」を開催し、多くの方楽しんでいただくことができました。「春フェア」での期間中の来園者は延べ17万人、イベントの満足度は97%でした。また、「秋遊び2025」では、昨年好評だった薬師池に雲海を出現させる演出のほか、新たに藤棚のライトアップを実施し、期間中の来園者は延べ27万人、イベントの満足度は87%でした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①未完了</li> <li>②92%</li> </ul>	C	C:目標水準を達成したためです。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①引き続き、町田リス園基本計画の策定に向けて関係団体等に丁寧な説明を実施していきます。</li> <li>②四季彩の杜が何度でも訪れたいとなる魅力的なエリアとなるよう、各施設と連携したイベントの開催や、効果的な情報発信を継続していく必要があります。</li> </ul>
2	重点事業プラン	町田市に訪れるJリーグサポーター向けの魅力発信	Jリーグサポーターに向けて、町田市の魅力を伝えるようなプロモーションを展開します。	ビジターサポーターに向けたシティセールスの実施回数	2回	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アウェー会場にPRブースを設置し、シティセールス活動(観光マップの配布や観光案内の実施など)を1回実施しました。</li> <li>5月 JFE晴れの国スタジアム ファジアーノ岡山戦 400名来場</li> <li>・ホームゲーム開催時に小田急線町田駅にPRブースを設置し、ビジターサポーター向けにシティセールス活動を1回実施しました。</li> <li>5月 柏レイソル戦 329名来場</li> </ul>	FC町田ゼルビアのACLE等の試合に合わせて、町田市を訪れるビジターサポーターに向けたシティセールス活動を実施します。	JリーグやACLEのビジターサポーターに向けて、町田市の魅力を発信するため、アウェー会場(JFE晴れの国スタジアム・岡山市)やホームゲーム開催時の駅前(JR町田駅、小田急線町田駅・鶴川駅)にPRブースを設置し、シティセールス活動を計6回(Jリーグ3回、ACLE3回)実施しました。その結果、延べ1,300名以上の来場がありました。また、FC町田ゼルビアにとって初参戦となるACLEのホームゲーム開催時には、鶴川駅にPRブースを設置し、試合観戦に訪れる外国人サポーターをメインターゲットとして、外国語版観光マップ等を活用した観光案内や町田市のPRを行いました。さらに、ACLEの開催に合わせて、おでかけ情報サイト「aumo」に外国語による町田市の観光情報を掲載し、外国人ビジターサポーター向けの情報発信を行いました。	6回	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	Jリーグサポーターをはじめ、多様なターゲット層に向けた観光プロモーションの実施方法について、検討する必要があります。

順位	計画 類型	年度目標設定			中間確認		年度末確認						
		取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
3	重点 事業 プラン	デジタルイ ベントの実施	アニメ等の映像作品のコンテンツとデジタル技術を活用した新たなイベントを企画し、実施します。	参加者の満足度	80%以上	○	町田市がモデルのアニメ作品と音声AR(※)を活用したイベントを企画しました。5月に東京都への補助金申請を行い、10月からイベントを実施できるように準備を進めています。  ※音声ARとは、現実世界に仮想世界の音が混ざり合う新感覚の音響体験を提供する技術	音声ARを活用したイベントやアニメ声優によるトークイベントを開催し、アニメファンをはじめ、多くの方の来訪を促します。	町田市がモデルのアニメ「うたごえはミルフィュー」とのコラボレーション企画を実施しました。まず、10月から3月まで町田駅前において、新規描き下ろしのアニメイラストを用いた壁面フビングを実施し、回遊イベントやアニメ作品のPRを行いました。次に、10月から12月にかけて、アニメと音声ARの技術を活用し、市内を回遊するイベントを開催しました。参加者からは、音声ARによりアニメに登場するキャラクターと一緒に市内を巡っているような体験ができる点が好評で、参加者満足度は98%となりました。また、10月にはアニメ声優が出演するトークイベントを開催し、作品に登場した町田市のスポットや町田市にゆかりのあるエピソード等を交えたトーク内容を通じて、市の魅力発信を行いました。これらのイベントを通じて、アニメファンをはじめ延べ850名以上の来訪がありました。	98%	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	シティセールスの手法として、引き続きアニメ等のコンテンツとデジタル技術を活用したイベントを行います。
4	-	鶴川エリアの 魅力向上	2025年1月の鶴川香山園開園を契機に、鶴川エリアで活動する団体や関連する団体、周辺施設等と連携し、鶴川エリアの魅力向上を図ります。	連携団体数	15団体	○	鶴川エリア魅力向上の取組として、鶴川エリアの活動団体を中心に「ようこそ！鶴川OMOTENASHI祭り2025秋」を10月に開催します。イベント実施に向けて周辺施設とも連携し、イベント内容等について調整をしました。9月末時点での連携団体は14団体となっています。	10月に「ようこそ！鶴川OMOTENASHI祭り2025秋」を実施します。	鶴川地区協議会や武相荘をはじめ、鶴川エリアで活動する団体や関連する団体、周辺施設等と1年間で計15団体と連携し、鶴川エリアの魅力向上に取り組みました。これらの連携により、10月に「ようこそ！鶴川OMOTENASHI祭り2025秋」が開催され、2,255人の来場がありました。イベントの満足度は88%でした。	15団体	C	C:目標水準を達成したためです。	引き続き、鶴川エリアで活動する団体や関連する団体、周辺施設等と連携し、鶴川エリアの魅力向上を図ります。
5	人材 育成	「チャレンジ 志向」	・最新技術や先進手法等についての研修や他自治体の先進的な事業についての視察等に参加することにより、観光まちづくり業務の知識向上を図ります。	研修・視察等回数	7回	○	観光分野の分析や地域の魅力発信などの業務知識を高めるため、中小企業庁主催の観光分野向けシステム説明会や市内での広報研修などに7回(研修・説明会6回、視察1回)参加しました。あわせて、新たな観光コンテンツの活用方法を学ぶために展示会の視察を行いました。	引き続き、研修や視察の機会を積極的に活用し、業務に必要な知識・能力向上を図ります。	観光分野に関する業務知識の向上を目的として、目標を上回る12回の研修・説明会や視察に参加しました(研修・説明会10回、視察2回)。研修や説明会では、観光情報のデータ分析の活用方法や、地域の魅力を効果的に発信する手法について理解を深め、今後の観光施策を検討する際のデータ分析等に活用しました。また、展示会などの視察を通じて、デジタル技術やインバウンド対応に関する知見を深め、来年度のイベント企画や外国人向け情報発信等の検討に役立ちました。	12回	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	観光を取り巻く環境の変化に対応するため、引き続き研修・視察等に積極的に参加し、知識の習得と情報収集に取り組みます。

部課名		経済観光部農業振興課											
課の使命		○「市民と農をつなぐ」魅力ある町田の農業を実現します。 ○「住む人も 訪れる人も 居心地のよい まちだの里山」を実現するため、多様な主体との連携・協働により里山環境を活用し、町田ならではの「新しい里山づくり」を推進します。											
実行計画(年度目標)													
		年度目標設定				中間確認			年度末確認				
順位	計画類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に対する実績値	評価	評価の視点	課題と対応
1	重点事業プラン	拠点施設整備に関する里山資源の調査	里山環境の再生や、木材・竹材など里山資源の活用促進を目的として、「小山田エリアにおける里山環境再生・活用拠点施設」整備候補地の沿道周辺にある森林を対象に、活用可能な木材資源の樹種や量などの調査を実施します。	里山資源調査の実施	完了	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上小山田町と下小山田町の市有山林における樹木の種類及び量を算出することを目的とした調査の場所を、4か所決定しました。</li> <li>・1か所目の現地調査に着手しました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き現地調査を実施します。</li> <li>・調査結果を基に、2024年度のサウンディング調査の対象だった事業者と、再度、拠点施設の整備に向けた意見交換を行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4か所全てで現地調査を行い、山林内の樹木の樹種や本数等についてとりまとめました。この調査結果をもとに事業者と意見交換を行い、拠点施設整備に向けた里山のフィールド活用や活用実証実験に関する意見をいただくことができました。</li> </ul>	完了	C	C:目標水準を達成したためです。	拠点施設整備に向け、引き続き地域住民・事業者との対話を継続します。加えて、事業者からの意見を活かし、里山に関わる人や事業者を増やすための実証実験イベントをはじめとした取り組みを進めます。
2	重点事業プラン	地産地消の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>①町田産農産物「まち☆ベジ」をより多くの市民に購入してもらうために、イベントや広報媒体などの様々な手法でPRを行います。</li> <li>②市内産農産物販売に関するニーズ調査の結果をもとに、子育て世帯のライフスタイルに合った市内産農産物の効果的な販売方法を事業者と決定します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①子育て世帯のうち「まち☆ベジ」を購入したことがある人の割合</li> <li>②販売方法の決定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①75%</li> <li>②決定</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>①2025年3月に発行した第3弾となる「まち☆ベジBOOK」を市内公共施設や学校等の各施設に配布しました。好評により当初配布予定の6,000部から追加で約3,000部の配布依頼があり、現在約9,000部配布済みです。</li> <li>・夏野菜の流通量が増える時期に、子育て世帯をターゲットとした「まち☆ベジ」PRの取組として、中央図書館と連携し「まち☆ベジ」に関する特集コーナーを設置しました。図書館の担当者からは、子どもが足を止めて本を見ている姿が多く見られたという報告を受けています。</li> <li>②2024年度のニーズ調査の結果をもとに、子育て世帯のライフスタイルに合った市内産農産物の販売方法について事業案の検討に着手しました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①引き続き「まち☆ベジBOOK」の配布を行います。</li> <li>・秋冬野菜の流通量が増える時期に、JA町田市の直売所(アグリハウス)や子ども向け施設と連携し、「まち☆ベジ」PRイベントを実施します。</li> <li>②子育て世帯のライフスタイルに合った市内産農産物の販売方法について、事業者と調整を進め決定します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「まち☆ベジBOOK」を市内各施設にて配布し「まち☆ベジ」をPRしました。</li> <li>・鶴川地区、忠生地区に加え、今年度は新たに南地区のJA町田市「アグリハウスみなみ」にて11月に「まち☆ベジ」のPRイベントを開催しました。</li> <li>その結果、子育て世帯のうち「まち☆ベジ」を購入したことがある人の割合は77%となり目標値を上回りました。イベントによるPRが効果的であったため、来年度は他のエリアでのイベント実施により更なる購入者の増加を目指します。</li> <li>②子育て世帯のライフスタイルに合った市内産農産物の販売方法についてJA町田市と調整し、施設等への拠点配送方式に決定しました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①77%</li> <li>②決定</li> </ul>	C	C:目標水準を達成したためです。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「まち☆ベジBOOK」等の広報媒体を通して、引き続き子育て世帯へ「まち☆ベジ」や直売所をPRします。</li> <li>・より多くの市民に「まち☆ベジ」を購入してもらうために、来年度は今までイベントを開催していないエリアでPRイベントを実施します。</li> <li>②市内産農産物の拠点販売の実施に向けて、注文・決済方法、配送拠点などについてJA町田市と協議を行います。</li> </ul>
3	事務事業見直し	その他の集約化・効率化(市有財産の活用手法の検討)	里山環境活用保全事業用地のうち、十分に活用が図られていない山林等について、企業や団体が里山の再生・活用の取り組みに参画しやすいよう、事業用地の地形、植生、周辺環境などの調査を行います(調査1年目の2025年度は調査対象の30.5haのうち1/4にあたる7.6ha)。	十分に活用が図られていない山林の現況調査実施面積	7.6ha	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査方針に基づき、2025年度は、十分に活用が図られていない事業用地のうち、アクセスしやすい道路沿いの山林等について現況調査を行うことに決定しました。</li> <li>・調査対象地域の土地について、保管している資料を基に、書面調査に着手しました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き書面調査を行います。</li> <li>・書面調査が完了した対象地について現地調査を行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査方針に基づき、7.6haの調査地を選定し、現地調査を行い、土地の現況について把握することができました。</li> <li>・現地調査が終了した土地については、活用に向け、隣接する土地や道路の状況に応じた活用プランを検討する必要があります。</li> </ul>	7.6ha	C	C:目標水準を達成したためです。	残りの調査対象地の現地調査を継続するとともに、調査が終了した土地の活用プランを作成します。

順位	計画 類型	取組項目	年度目標設定			中間確認		年度末確認					
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
4	人材 育成	職員能力向上 のための研修 の実施	現場研修などを実施することで、組織内のチーム ワーク力向上と職員の技術・知識向上を図ります。	研修実施	2科目	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・里山環境保全活動に関する知識向上と竹林整備技術の向上を図るため、5～6月にかけて、小野路・小山田エリアで市有地管理現場研修を行いました。係長以下の職員16人中13人が参加しました。</li> <li>・農地の現状把握や肥培管理に関する知識の向上を図るため、7月に、農業委員が行う市街化調整区域の農地・トラールに随行する農地確認現場研修を実施しました。係長以下の職員16人中14人が参加しました。</li> <li>・他の職員の業務の体験を通じて、職員同士のコミュニケーションを深めることに効果がありました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、市有地管理現場研修及び農地確認現場研修を行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小山田エリアで幼竹伐採研修を行い、その結果、現場管理の必要性と技術を学ぶことができました。</li> <li>・農地の現場確認作業を行い、その結果、市街化調整区域内の農地の現状および肥培管理について学ぶことができました。</li> <li>・加えて後期には小山田エリアで里山の資源調査を5回行い、その結果、里山の現状と課題について学ぶことができました。</li> <li>・3科目の研修を実施することで、組織内の知識・技術向上と相互理解を実現することができました。</li> <li>また、現場作業に担当外の職員が協力することで時間外勤務の抑制に繋がり、時間外勤務時間数を最小限に留めることができました。</li> </ul>	3科目	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新年度に異動してきた職員を対象に研修を行い、職員間の知識・技術向上と更なるチームワーク力向上に努めます。</li> </ul>